

に興味ある研究事項も多いが、其の事は既に前掲島根縣舊藩美蹟に詳しく記述せられて居り、再び之れを繰返すのも無意義であるから今は省

略に附する事とする。

(十三・十一・十七)

地理教材としての地形圖(六)

久能山と三保松原

二十萬分ノ一帝國圖靜岡、五萬分ノ一地形圖靜岡市、駒越、清水町、吉原町、同二萬五千方ノ一、靜岡東部、駒越、興津、清水、二十萬分ノ一地質圖、靜岡、富士參照、靜岡縣は我國に於ける茶の主産地である。内國用に輸出に其全産額は全國に一頭地を抜いてゐる事など今さらいふまでもない。靜岡縣は伊豆、駿河、遠江の三ヶ國を合せてゐるが、茶業は就中遠州東部に於て盛大で其一茶園は優に山城宇治全茶園より大であると稱するものが指折り數ふるほどである、茶は最礫質の丘陵地に適する。遠州東部に

て牧ノ原臺地の如きは洪積世の砂利層よりなつて茶園の最適地である。遠州には第三紀層の丘陵地が廣いがこれは礫層に次いで茶園に適してゐる。遠州はかくの如く茶を産し此を外國に出さんにも良港がない。然しほど遠からぬ靜岡市の東十軒にして清水の良港がある。靜岡縣としてはまことに都合がよい。此故に清水港は年々發展して終に最近江尻、入江兩町と連合し市制をしくまでになつた。此合併で三町民の市名驛名の争を生じたやうな挿話もある。清水港をして良港たらしめたものはなんであるか。それは音に高き名勝地三保ノ松原の砂嘴が風波を防ぐが故である。三保ノ松原はどうして出來たらう

それは直近くに久能山があるからである。

東海道一帯には沈降海岸地形が見られる。静岡縣の海岸は就中沈降したるものである。そもそも山多き海岸が沈下した最初の地形は所謂リアス式であつて谷はそのまゝ沈没して深い灣となる。山の尾根(リッジ)は半島となり岬となり海中に突出する。沈降が一時停止するか弱まつた時には海蝕が加はつて来る。その結果突出部が切り崩されて後退してゆく。切り崩した土砂は普通は海岸に沿ふた潮流の爲に運ばれて灣口に移動する。かくの如くして灣口には砂嘴が發達する。一方谷奥の河川は灣を埋めてゆく。埋め立が進行すれば最初の砂嘴内の灣は全部沖積地となつてゆく。静岡縣の海岸に就て言へば遠州相良の海岸、久能山の海岸は突出部の切り取られて後退したるものであり濱名湖は土砂を流し來る川がない故に灣が残つてゐるものであり島田、藤枝附近の沖積地は大井川に静岡附近の沖積地は安倍川に埋め立てられた灣である。久能山の東方は駿河灣が深く入つて興津に及んで

ゐる。此方面は多量の土砂を流し來る河川がないので清水の灣の埋め立てはほんの一部だけしか進行してゐない。しかし此小平地のある事は清水の都市發展上に有利である事はいふまでもない。三保ノ松原の砂嘴をなす質は主として久能山の破壊によつて得られたものである。

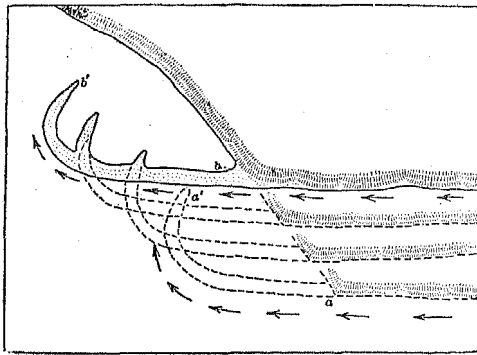
久能山に行くには静岡より坦々たる道を自動車にて二十分足らずにて達し得る。地圖に見らるゝ如く久能山の丘陵塊は半圓形で北方に緩く傾斜し南東は駿河灣に面して斷崖である。開析が進行して全體として壯年期の地形を呈するが久能山北方には三百米の臺地が残つてゐる。臺地の表面は北に傾いてゐる。南東面斷崖側は谷が甚若いが北方に流るゝ谷は稍年老いたる感がある。此は此丘陵塊が前にもつともつと南に延びてをつたのが海波に切り取られたために谷の浸蝕が衰へたことに歸せねばならない。斷崖側の谷が若いのも其故で地形圖にも明かに多くの小き堀レ溝(ガレー)が示されてゐる。地質上より申せば久能山丘陵群は上下二部よりなる

上部は厚い砂利層で北北西に僅かに傾斜してゐる。此砂利層は牧之原の洪積層濱松附近の洪積層に比すれば一段と古めかしく最よく遠州小笠山の礫岩に類似してゐる。小笠山の礫層は掛川町附近に發達した鮮新世下部の地層を不整合に被覆してゐるが久能山の礫層は下部の海成青色粘土の層を不整合に被覆してゐる。後者は三浦半島の鮮新世上部に産する *Limopsis tokaiensis* と稱する二枚介の化石を多く包藏してゐる。三浦半島の岩石は凝灰質であつて久能山のごとく稍異つてゐるから兩者は全然時代が同じとは言へないが大變に近い頃のものである事は斷言し得る、久能山の砂利層はまた茶園に適してゐる。

西方豊田村小鹿には製茶研究所がある。

三保ノ松原の砂嘴は先端が内曲してゐる。内側には別に二つの突出部がある。一番西にある突出部は最古い砂嘴の先端の殘物で中のものは此に次ぐ前の先端である。最初は久能山丘陵塊の南東面斷崖は現在よりもすつと遠く沖にあつた其時に出來た砂嘴は次に斷崖の後退したる時

に共に切り取らるゝ第二の砂嘴が出來るが深く内曲した先端は其まゝ殘る。此關係はジョンソンの圖によりよく説明さるであらう此圖と三保ノ松原は東西が異なるのみである。



い。

かく考へて見れば久能山、三保ノ松原の地形は實に面白くなる。地圖をじつとにらんでみて此様な事が了解できる。そしてその中に日本一

海蝕は久能山に斷崖を作り次第に其を後退せしめた。砂嘴は其斷崖の延長線上に海中に生成すれば従つて砂嘴も位置を換へねばならぬ。此作用を海岸線の單純化と稱した

の茶輸出港がある。しかも其秀麗なる風景は古來詩情豊なる日本人の胸に何者を印したらうかそこに羽衣の傳説が生れたのも無理からぬ。近くは一代の文學者樗牛の墳墓の地となり遠くは戰國の俗人家康がそこに世を忘れた。現在にても東海道鐵道旅客をして競つて窓側に集らしむ

濱邊づたひのみち草

如舟老人

るといふのは三保の松原の故にか見ん人の心優しき故にかわからぬが私共は天地あるがまゝに由つて起る地勢の所以を默思する地學者でまた變つた面白味を感せずには居られないのである。

(横山)

一、奥羽の夏の濱邊

歐洲歸航數旬の海程に受けた雜多の印象を齎らして神戸に着いた時に郷里の親戚が出迎へて呉れたのは嬉しかつたが、その目的は單な歡迎ではなくて、秋田の南本莊附近の金山を鑑定してほしいとの希望で、終に歸朝後一月も經ぬのに久しくはき慣れた味の忘れられた草鞋掛の旅行を奥羽の地方に試むることになつた。黒澤尻から下車して仙人鐵山を遙かに眺めつゝ、人力車

で横手に出た。温泉めぐりみち草に記した如く關山峠を越え能はなんだ後六年目に分水界を越えたので頗る愉快で、昔の雄勝柵が何處かも知らずに林檎園の間を縫ふて御物川上流の平野を横ぎつて淺舞に一泊し、それから枯梅雨なまめと聞いてに拘はらずそぼ降る雨を冒し、山間の名物秋田露の大きな葉に滴る露に全身を濡らして鑛山を見て矢島に泊り、焼いた岩魚を土産にして貸切馬車で本莊を通り、行手果てなき砂濱に出